

クライムエヌシーデー

相模原市南区

感動を売る

モノづくり集団

神奈川県相模原市。相模川を一望できる緑豊かな土地の一画に、門の脇で箸を持ったお地蔵様が迎えてくれるクライムエヌシーデーがある。1988年に創業した同社は、従業員数32名と、規模は小さいながらも22年間黒字経営、自己資本比率93%の実績を誇る。業務内容は、CAD/CAM製作事業、エンジニアアニメーション事業、機械加工事業の3事業がメインである。CAD/CAM製作事業は、コンピューター上のバーチャルなモノづくりで、データ上で製品の設計を行い、その設計データをもとに、実際に加工ができるように工作機械を制御するデータを作成する事業だ。次いでエンジニアアニメーション事業は、立体的なアニメーションで金型加工の学習に効果的な支援ツールを制作する事業、そして機械加工事業は、工作機械を使って金属加工を行う事業である。以上のように多岐にわたってモノづくり事業を行っている同社において、創業者である高橋百利社長の経営観、そして人生観に迫った。

“価格”競争ではなく“価値”競争へ

街の大型スーパー、ファストファッション、駅前の牛丼屋…。近年、日本中では至る所でデフレ競争が巻き起こっている。競合他社と1円単位で価格競争し、安さに企業努力を注ぐことが日本企業の風潮と化しているが、高橋社長はこうした風潮に与しない。フェラーリ、シャネル、エルメスといったように古くから“価格”よりも“価値”に重きをおいているブランドメーカーと同様に、“価格”競争から“価値”競争に持ち込むことがクライムエヌシーデーの企業戦略だ。

では具体的に「価値」とはなにか。まずひとつめは「技術力」である。

CAD/CAM事業では、顧客が他社に依頼してできなかつたものを、同社の技術力とノウハウによってつくりあげ、顧客の信頼を勝ち取ってきた。それを具体的な「物」として示す機械加工事業では、同時に5軸加工のマシニングセンターを駆使し、3軸加工では難しい曲線や高精度の金属加工を実現している。この同時に5軸加工の驚くべきはその表現力で、金属を加工して作った「餃子」は皮の質感が金属とは思えないほど忠実に再現している。こうした他社にはない技術力によってクライムエヌシーデーは顧客に感動を与えるだけの「価値」を築いてきたのだ。高橋社長は、「景気が悪くなつて苦しくなるのは、『技術』がないから」と語る。すなわち技術力があるからこそ、景気に左右されないのだ。この確固たる「技術力」が、22年間黒字経営の基盤を支えている。

次に挙げられるのが、「信頼」である。同社の加工技術センターの一室に大掛かりな高性能測定器がある。価格はおよそ2250万円。これほどの測定器は日本の企業ではなかなか見かけることはないという。この測定器の特徴は100分の1mmの誤差を測っている。このような測定器を使用し、自社商品及び顧客からの受注品の精度を保証しているのだ。「顧客に満足してもらう」という高橋社長の強い思い入れが高価格の測定器の購入に表れている。「楽して儲かる事はない」。高橋社長の言葉通り、その徹底した品質管理によって顧客の「信頼」を獲得し、やがて企業としての価値を生み出すのである。

「時に応じ、自分を捨て、命をかけて他人を助ける」

高橋社長には、創業時にひとつのエピソードがある。当時、勤めていた大手プレス部品会社を退職し、自らの会社を起こうとした際に、なんと6社からおよそ1000万円の支援を受けたという。その6社は高橋社長が退社する前から付き合いがあった企業であった。「あの時の恩をここで返させてくれ」。支援を申し出た企業の社長の1人はこう言ったという。これも、高橋社長の技術者として、そして人間として正直に懸命に働いてきた証左であるといえる。「時に応じ、自分を捨て、命をかけて他人を助ける」ことを座右の銘として生きてきた高橋社長は、これからもあの箸を持った地蔵様のように、世のために働き続けるのだろう。また、同社を支えている社員に仕事のやりがいについて聞くと、ある社員は、「社長にほめられるよりお客様にほめていただいた時の方が嬉しく、やりがいを感じる」と語った。この社長にして、この社員でありである。

情熱のその先へ

クライムエヌシーデーの今後の展望について高橋社長は、「我々はこれからも地に足の着いた経営を継続し、クライムエヌシーデーの看板を守り続けること、そして若い人につなげること」と語る。独自の仕事観・人生観を持ち、モノづくりにひたむきな情熱を注ぐ高橋社長の目標は実に謙虚で堅実なものだった。リーマンショック、サブプライム問題、ユーロ危機など世界中に蔓延する「経済不安」を前にしても、高橋社長の信念は揺るがない。



高橋社長が送る若者へのメッセージ！！

「人は1人で生きていけない」

人という字は2人の人間が支えあって初めて成立します。また「人間」の「間」の字は2人の間に小さい人が入りお互いがお互いを支え合っています。そして、それは人生でも当てはまります。日々、他者の存在を忘れず、生きてください。

「身を削り、人に尽くさんすりこぎの、その味知れる人ぞ尊し」

これは道元禅師が唱えた人生訓です。すりこぎというのは、すり鉢でよくゴマなどをするときなどに使われる木製の調理器具です。木製ですので、すりしていくと段々と木が削られ短くなっています。この特性を活かし、すりこぎの材料を山椒にして、削られたカスも料理のアクセントとして古来から活用されています。美味しい料理を食べてもらうために身を削り一生懸命尽くすすりこぎのように、皆さんも世のため、人のために頑張れるような社会人になってください。

「天網恢恢、疏にして漏らさず」

これは中国の老子の言葉です。天(神、自然の理法、摂理)の網は抜け穴だらけのように見えるが、結局は悪は必ずその報いを受けていくという意味です。私は、今までの人生の中で財布を5回拾いましたが、全て警察に届けています。落とした3回の財布は一度たりとも返ってきませんが・・・。どんな悪事でも最後は必ず自分の身に返ってきます。自分を誇れるような正直な人生を送ってください。

「画竜点睛を欠く」

仕事というものはやり始めたら、それまではよい仕事をしていてもひとつの油断やミスで評価はガラリと変わります。結果はどうあれ最後までやりきり！このことを肝に銘じていただきたいです。

「掃除の好きな人に、悪者はいない」

これは私の経験則ですが、掃除好きに悪い人はおりません。うちの会社も社員全員で毎朝掃除したり「月2回公園のゴミ拾い」を行なうとして行なったりと、掃除には力を入れています。かくゆう私も、毎朝会社に着いてまず始めるところは掃除です。掃除は周りの人も良い気分になるし、同時に自分もすっきりします。皆さんも掃除はマメに実行しましょう！

株式会社クライムエヌシーデー

所在地	相模原市南区下溝1096番地	
代表者	代表取締役社長	高橋 百利
資本金	3,000万円	創業 昭和63年
従業員数	31名	
事業内容	CAD/CAMデータの製作と販売 エンジニアリングアニメーションの制作と販売 5軸加工を中心とする機械加工	
電話（代表）	042-777-7333	
ホームページ	http://www.climb-ncd.co.jp	

担当 江藤 佑 大槻 純美